

頭の変形とむき癖について

頭の変形の大部分は、同じ方向を向いていることにより頭の一部が圧迫されることが原因です。小さく生まれたお子さんは、頭蓋骨が柔らかいため、長期間の呼吸器管理やケアの影響を受けて、頭が変形しやすく、むき癖が強い傾向があります。

出生体重が1,500g未満のお子さんでは、顔が細長く頭部の前後径が長いという特徴が多くみられます。この特徴は幼児期までみられますが、小学校を卒業するころにはほとんど改善されています。

“むき癖”のある期間が長くなると、顔を合わせることや、両手を使う発達などがゆっくりになることもありますので、頭の変形が気になる場合やむき癖の対応については、成長・運動発達編の「頭の変形とむき癖の直し方について」を参照してください。



現在のところ、ドーナツ枕やベビー枕が頭の変形予防に効果があるかどうかについては、科学的に十分な根拠はありません。また安全性についても証明されていません。

【医療機関に相談が必要な場合】

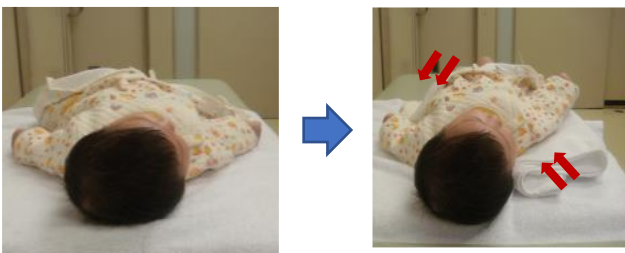
- 頭の変形が強く、修正3か月以降も極端にむき癖が強い場合
- 頭の変形がだんだん強くなる場合

むき癖と股関節脱臼について

むき癖があると、向いている側と反対の脚がしばしば立て膝となっていることがあります。このことにより股関節脱臼が誘発されることがあります。

○寝ている時

むき癖方向と反対側の脚が立て膝にならず、外側に開いた状態になるように、むき癖側の頭から身体までをバスタオルやマットを利用して少し持ち上げるなどしてみましょう。



○抱っこの時

抱っこは正面抱き「コアラ抱っこ」をしましょう。

赤ちゃんを正面から抱くと、両膝と股関節が曲がったM字型開脚でママやパパの胸にしがみつきます。

くびがすわる前でも、必ず頭を支えて行えば問題ありません。

先天性股関節脱臼予防パンフレットより

～日本整形外科学会、日本小児整形外科学会～

